

2021.12.6

Report from AKATSUKA PARK

赤塚公園武蔵野台地崖線植物モニタリング活動

紅葉はきれいだったり まばらだったり 見る角度によって違う今年の秋

12/6のモニタリングは9:00のスタート時に7.0℃が、12:20の終了時には12.7℃でした。お昼ごろになって気温は上がってきたものの暖かくはならず、本格的に冬が近づいてきた感じです。



さて、赤塚城址の本丸南側には、人の背丈を凌ぐドウダンツツジの大木があります。それが見事に紅葉して、遠くから見ると火の玉のように見えます。ところが、このドウダンツツジ。見る位置を90度変えて西の方角から見ると北側半分の紅葉がまだ浅いことに気が付きます（下の写真）。



昼間はよく晴れて暖かくなるけれど、朝の冷え込みは激しいという日が続くと、落葉樹の葉がきれいに色づくのですが、それは昼間温められた地表近くの空気が上昇し、上空の冷たくなった空気が下降して入れ替わる「放射冷却」によって、木々の葉が急に冷やされるからです。

このドウダンツツジの場合、下の写真の位置からみると、まだ紅葉が進んでいない左側部分の真上にはコナラなどの大木の枝が張り出していて、上空の冷たい空気が下りてくるのを妨げているのです。だから紅葉になるのが遅く、右側部分の上は空が開けているので冷えた空気がまともに当たるので、紅葉もどんどん進むという具合です。

今年の秋は、気温がストレートに下がらず、したがって放射冷却も弱いのでしょうか、部分的にしき紅葉しない「まだら紅葉」があちこちで見かけられます。

今冬はラニーニャ現象で厳冬が予測されているのに、おやまあ！ 春・夏の花！

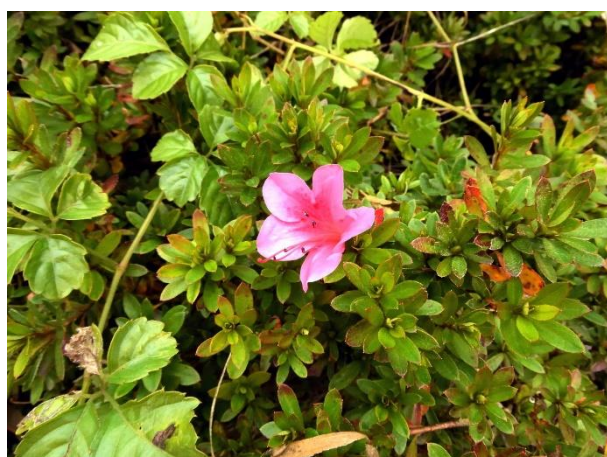


写真左はチチコグサ、よく観られるチチコグサモドキとかウラジロチチコグサなど紛らわしいものとは違うれっきとした「お父さん」。そのすぐそばでハハコグサが揃い咲きして

いる珍しい光景。右は夏草の代表種カナムグラの新芽が伸びて花も咲いていました。



このレポートは、夏から「春の野草がまだ咲いている」とか「来年の春に咲く野草の展葉」を伝えてきましたが、左は**ヨモギ**、春姿で花も咲いていて、右は植え込みの**サツキツツジ**、これだって春の花。



これだけ野草の開花に季節性がなくなってくると、わたしたちの身の回りの自然が大きな変容を始めているということ。もっと丹念に観察を続けていかなければなりません。



今年最初のニリンソウ開花を観察 →→→→

20年以上も前から特異株の「12月に咲くニリンソウ」があるのですが、これは咲いた場所が違うので、温暖気候の影響で開花したものかもしれません。

これまた、要観察！

* 12月のモニタリングは、あと2回

12/13=クリーンアップ月間に参加、12/20 9:00 ため池公園スタート

* ニリンソウ自生地保護活動もあり 12/12、12/19 10:00 大門観察台集合

こちらにも参加大歓迎 問合せ先：赤塚公園サービスセンターへ 電話：03-3938-5715